

## 第2章 将来像の実現に向けて

### 基本目標 1

あらゆる世代が生涯にわたって  
成長し輝くまちの実現  
(生涯学習分野)

## 現 状

急速な高齢化や技術革新など社会が大きな転換点を迎える中、国は時代の変化に応じて新たな知識や技能を身に付けることができる「学び続ける」社会の実現のため、生涯学習の重要性が一層高まっているとしています。

一方で、社会の成熟化に伴い、個人の価値観やライフスタイルが多様化していることや、タブレット端末・スマートフォン保有率の増加などICTの進展により、生涯学習を取り巻く環境は大きく変化しています。

平成27年度「台東区民の意識調査」では、この「1年間に生涯学習をしたことがある」と回答した区民の割合は75.3%であり、前回調査と比較して26.7%増加しているほか、生涯学習に関する情報入手方法については、「情報端末やインターネット」が1位となっています。一方で、「1年間に行った生涯学習」と「今後行いたい生涯学習」の内容がかい離していることが明らかになっており、今後の台東区における人口増加の見込みも考慮すると、生涯学習に対する区民ニーズはさらに多様化することが予想されます。

図書館には、区民の教育と文化の発展に寄与するという目的や、生涯学習の一翼を担うという役割があります。

平成29年度「台東区立図書館に関する調査」では、充実すべき図書館サービスとして、「本などの図書館資料の充実」、「講演会や朗読会など、大人向けのイベント」、「高齢者に対するサービス」が上位を占めています。平成29年度「台東区総合学力調査」では、1か月間の読書量が0冊の割合（不読率）について、小学校4年生が7.5%、小学校5年生が10.1%、中学校1年生が14.1%、中学校2年生が18.3%となっており、依然として、学年が上がるにつれ子供の読書離れが進む傾向がみられます。

生涯学習の場である社会教育館及び図書館では、一部の施設でバリアフリー化が進んでいない状況であり、施設の機能向上を図ることが大切です。

区では、家庭教育や青少年教育、シニア世代の学習支援など、ライフステージに合わせた様々な生涯学習の機会を提供しているほか、図書館では、資料の充実をはじめ、ICタグシステムや自動貸出機の導入といった利用者の利便性向上を図るなど、図書館機能の充実に取り組んでいます。

## 課題

生涯学習に取り組む区民の更なる増加を図るとともに、多様化する学習ニーズに対応するため、ICTを活用した効率的な学習情報の提供を行う必要があります。

また、区民の知的欲求を充足させるため、誰もが利用しやすい読書環境の整備や、本を通じた交流の場の提供など、図書館サービスの充実を図るとともに、子供の読書習慣の定着促進のため、子供の読書活動を推進する必要があります。

さらに、社会教育館や図書館などの社会教育施設は、あらゆる世代の学習ニーズに対応した施設運営を行うことが求められており、バリアフリー対応をはじめとした施設の機能向上を図る必要があります。

## 10年後の目指す姿

- 多様な学習の情報や機会が得られ、多くの区民が自ら学習に取り組める環境が整備されています。



図書館でのおはなし会



オリンピック・パラリンピック生涯学習講座

## 主な取り組み

### ●多様な学習機会の提供

青少年期や子育て世代など、あらゆる世代が必要とする知識や技術を学ぶ講座や研修会を実施します。

### ●生涯学習の支援・振興

幅広く学習情報の収集を行うとともに、ICTを活用して区民の多様なニーズに応じた情報を提供します。あわせて、生涯学習を行う上での様々な相談に対応し、区民の多様な学習を支援します。

### ●図書館サービスの充実

区民ニーズを踏まえた資料収集を行うとともに、図書館の魅力やサービスに関する情報発信の強化など利用を促す取り組みを実施します。また、図書館で交流イベントを開催するなど、本を通じた出会いと集いの場を提供します。

### ●子供読書活動の推進

子供が読書に親しむためのイベントの開催や読書環境の充実を行うほか、学校や地域と連携し、子供の図書館利用を促進します。

### ●社会教育施設の機能向上

施設のバリアフリー化を進めるとともに、利用者の多様な学習ニーズに対応した効果的な施設運営を実施します。

## 施策の指標

指標名	現状 (2018年度末)	目標		出典
		(2023年度末)	(2028年度末)	
生涯学習に取り組む区民の割合	75.3% (2015年度)	80%	80%	台東区民の意識調査



## 現状

社会の成熟化に伴い個人の価値観やライフスタイルが多様化する中で、余暇時間における生涯学習活動に関しては、民間の講座を含め、多種多様な学習の機会が提供されています。

平成28年度「台東区区政サポーターアンケート調査」では、生涯学習を通じて身に付けた知識・技能や経験を、仕事や地域活動に活かしたいと思う区民の割合が80%を超えています。区では、生涯学習を通じて身に付けた知識や技能を、学習者本人の楽しみや教養、個人のキャリアアップだけでなく、区民同士の相互学習につながるよう、豊かな経験・知識を持つ地域の方々に対し、区民の生涯学習を支援するボランティア活動の場を提供しています。

これからの地域社会においては、区民が学習を通じて知識や技能を身に付けるとともに、多様化・複雑化している地域課題の解決や、様々な地域活動などに参画していくことが求められており、生涯学習を行うことは、このような地域づくりの支え手、担い手の育成のためにも一層大切になります。

## 課題

学習の成果を、区民同士の相互学習にとどめず、複雑化・多様化している地域課題の解決などに活用することを促進するため、区民が地域課題への理解を深め、生涯学習を通じて身に付けた知識や技能を活かす支援を行う必要があります。

## 10年後の目指す姿

- 学習成果を活かせる仕組みが構築され、その成果を地域活動に活用する意識が醸成されています。

## 主な取り組み

### ● 学習成果を活かすことができる仕組みの構築

区民一人ひとりの学習成果を地域で活かすことができる仕組みを構築し、地域活動に参画する人材の育成や、地域活動への参画機会を提供します。

## 施策の指標

指標名	現状 (2018年度末)	目標		出典
		(2023年度末)	(2028年度末)	
生涯学習の成果を地域活動に活用している区民の割合	—	40%	50%	台東区民の意識調査



生涯学習センター



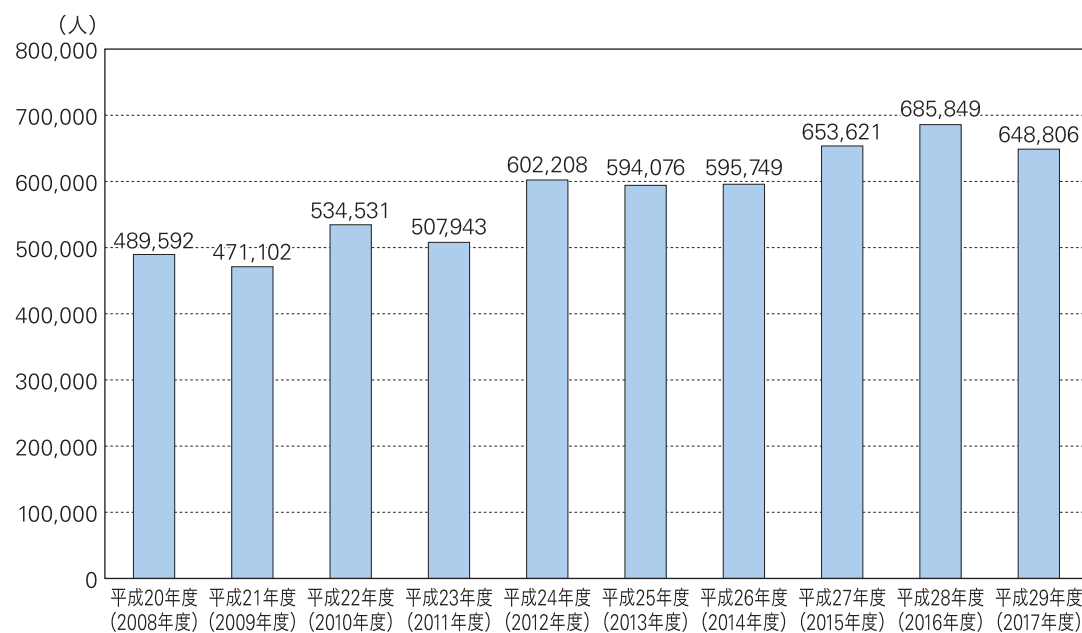
## 現 状

東京2020大会の開催が決定し、スポーツを取り巻く環境が大きく変化する中、台東区における区立スポーツ施設の年間利用者数は、平成19年度の約52万人から、平成29年度では約65万人となっており、増加傾向にあります。

平成28年度「台東区スポーツに関する基礎調査」では、ウォーキングや体操など一人でできるスポーツをする区民が増える一方で、実施した種目に変化がみられるなど、区民のスポーツに対するニーズは多様化しています。また、同調査では、障害のある方がスポーツを行う上で必要と思うことは、「施設のバリアフリー化」が71.3%と最も高くなっています。さらに、区が取り組むべき施策のうち、「スポーツ施設の整備・充実」に対する要望が、前回調査と比較すると、区民では35.9%から39.7%に、地域スポーツ団体では53%から60%となっており、両者共に高まっています。

区では、平成27年度に学校跡地を活用した地域体育施設「たなかスポーツプラザ」を開設したほか、身近でスポーツができる場の創出として、小中学校を活用した「スポーツひろば」を実施し、スポーツのできる場の充実を図っています。

区立スポーツ施設利用者数の推移



〔出典〕台東区調べ

## 課題

スポーツ施設利用者数の増加や様々な利用者ニーズに対応するため、スポーツ施設の更なる充実を図り、引き続き、適切な施設の維持管理を行う必要があります。

また、障害の有無にかかわらず、誰もが利用しやすいよう、スポーツ施設におけるユニバーサルデザイン<sup>\*</sup>の導入を進める必要があります。

## 10年後の目指す姿

- 誰もが身近な場所でスポーツに親しむことのできる場が整備されています。

## 主な取り組み

### ●スポーツ施設の充実

台東リバーサイドスポーツセンター陸上競技場については、周辺環境を一体的に捉え、施設の魅力を最大限に向上させ、施設の機能拡充を図ります。

また、スポーツ施設の充実について検討を進めるとともに、施設整備の際はユニバーサルデザインを導入します。

### ●スポーツ施設の維持管理

誰もが安全で安心してスポーツができるよう、スポーツ施設の適切な維持管理を実施します。

### ●既存施設を利用したスポーツのできる場の整備

公園や学校など地域に根差した様々な既存の施設を最大限に活用し、身近でスポーツができる場所を確保します。





## 施策の指標

指標名	現状 (2018年度末)	目標		出典
		(2023年度末)	(2028年度末)	
区立スポーツ施設利用者数	年66万人	年68万人	年70万人	所管課調べ
区立スポーツ施設に対する施設利用者の満足度	51.8% (2016年度)	増加	増加	台東区スポーツに関する基礎調査

### ※ ユニバーサルデザイン

障害者や高齢者なども含め、誰にでも使いやすい形に設計することです。ユニバーサルデザインには、①公平であること、②自由度が高いこと、③単純で、④分かりやすいこと、⑤安全であること、⑥余計な体力を使わないこと、⑦使いやすい適正な空間と大きさの確保などの原則があります。



台東リバーサイドスポーツセンター

## 現 状

平成23年に制定された「スポーツ基本法」では、スポーツは、世界共通の人類の文化であり、国民が生涯にわたり心身共に健康で文化的な生活を営む上で不可欠なものであるとともに、スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、すべての人々の権利であると位置づけられています。

平成28年度「台東区スポーツに関する基礎調査」では、台東区の成人の週1回以上のスポーツ実施率は60%であり、平成20年度に実施した前回調査の38.8%から大幅に増加していることから、区民のスポーツに対する気運の高まりがみられます。

一方で、障害者スポーツに関心がある区民は50%程度となっているものの、障害者スポーツを実施したことがある区民は1%にとどまっています。また、台東区の小中学生、高校生の体育の授業以外におけるスポーツ実施状況では、学年が上がるにつれスポーツをしない児童・生徒が増える傾向にあり、毎日スポーツをする児童・生徒と、しない児童・生徒の二極化がみられます。さらに、国においては「スポーツを支える体制づくりが重要である」とされていながらも、区民のスポーツボランティアへの参加意向について、「参加したい」との回答が16.9%にとどまっています。

区では、スポーツイベントの実施や健康づくりのための講習会など、様々なスポーツ事業を展開しており、東京2020大会を契機にスポーツ事業の充実を図っています。その中でも障害者スポーツは、障害の有無にかかわらず誰もが楽しむことができるスポーツであり、多様な人が一緒に楽しむことで、自然な形で障害のある方への理解を深める効果が期待できることから、東京2020パラリンピックを契機として、障害者スポーツの推進に取り組んでいます。また、平成27年度に台東区初の総合型地域スポーツクラブとして設立された「たなかクラブ」に対して、活動場所の提供などの支援を実施しています。



## 課題

スポーツ実施率の更なる向上を目指し、東京2020大会のレガシーを継承していくため、誰もが気軽にスポーツを始められ継続できる機会を創出するほか、障害のある方への理解を深めるために、障害者スポーツをより広く普及させる必要があります。

また、子供の頃からスポーツをする習慣を身に付けることは、その後の運動習慣に影響することから、子供がスポーツをする基礎づくりを支援する必要があります。

さらに、台東区のスポーツを支える体制を充実させるため、「支えるスポーツ<sup>\*</sup>」の重要性を普及させるとともに、その人材を育成する必要があります。

## 10年後の目指す姿

- 年齢や障害の有無にかかわらず、多くの区民がスポーツに親しんでいます。

## 主な取り組み

### ●誰もが気軽にスポーツに触れる機会の提供

多様なスポーツ教室やイベントを実施するとともに、区民がスポーツに関する情報を迅速に分かり易く入手できる環境を整備します。

### ●障害者スポーツの推進

障害のある方がスポーツを始めるきっかけとなる障害者スポーツ教室のほか、障害の有無にかかわらず、多くの区民が障害者スポーツを体験できるイベントを実施し、スポーツを通して交流できる機会を創出します。

### ●子供の体力向上

幼児期から身体の使い方を学ぶとともに運動習慣の基礎づくりを行い、スポーツの楽しさや達成感を味わうことができる教室やイベントなどの機会の充実を図ります。

### ●スポーツを支える人材の育成

「支えるスポーツ」の重要性について普及啓発を実施します。また、スポーツボランティアやスポーツ指導者に必要な知識が習得できる講習会を開催するとともに、スポーツイベントなど活躍できる場の充実を図ります。

## 施策の指標

指標名	現状 (2018年度末)	目標		出典
		(2023年度末)	(2028年度末)	
成人の週1回以上のスポーツ実施率	60% (2016年度)	68%	70%	台東区スポーツに関する基礎調査

### ※「支えるスポーツ」

文部科学省は、平成22年8月に「スポーツ立国戦略」を策定し、「する」「観る」「支える（育てる）」というスポーツ参加への多角的な視点から、新たなスポーツ文化の確立を目指すという方針を示しました。「支えるスポーツ」とは、指導者やスポーツボランティアなどに携わることを指します。



アスリートから学ぶLet's Enjoyスポーツ